



平成18年11月3日（金）

味覚糖UHA館

「手話の活用と日本語の習得」

講師：小田 侯朗 先生(独立行政法人 国立特殊教育総合研究所)



聴覚障害児の指導場面における手話の活用だけではなく、聴者にとっても「言語とは何か？」の問いかけから、聾教育の中での言語に対しての多面的な見方をご講義いただいた。教育現場で言語指導を考えたとき、指導として、使用するとして、環境から学ぶという視点で見ると「言語」のとらえ方が変わっていくが、その変化の中から学んでいくのが言語であるということ。「言語」は生きていて、そのときの社会状況、活用状況に応じて「変化」するもので、それに応じて教育場面での言語のとらえ方も違ってくるということ。また、手話か口話かといったとらえ方も「手法としてなのか」「アプローチとして

ら
のか」「主義としてなのか」の観点でみると整理や理解がしやすいというお話はとても納得



できた。また、言語を学ぶ上では音韻を意識することが非常に重要であるというお話もあり、手話を活用することと聴覚を活用することは非常に重なりを持ってつながっていることも再確認できた。全ては子どもたちがどう理解し、どう身につけ、どう活用していけるかに終息するという事なのだ、そのための実践を積み上げていく聾学校としてのあり方も考えていく必要があるという宿題をもらったように感じた。



「乳幼児の聴覚評価について」

～かかわりのプロセスを大切にしたい聴覚評価をどう聴覚活用に活かしていくか～

講師：澤田 進夫 先生（広島市難聴幼児通園施設「山彦園」前園長）



BOAやCORなど乳幼児の聴力検査のテクニックについて、実際の指導場面のVTR等活用しながら具体的ご講義していただいた。

今回の学習会は、82名の参加者があり、学校関係者以外に和歌山県下の難聴幼児に関わる医療機関や療育機関からも多数参加していただいた。参加された方に感想を寄せていただきましたので、紹介します。



～参加者の感想～

- ★ 月齢に合わせた聴覚評価や重複障害児の聴力検査法など大変勉強になりました。表現することに困難さを持つ重複障害児に対して、いかに検査者の主観を除き信頼関係に基づいた検査を成立させるか、熟練が何よりも大事ななと感じました。
- ★ 子どもの発達を知らないでBOAは出来ない。先生のビデオを見せていただき、そのことがよく分かりました。来院された児の検査がうまくいかないと、誘導してしまうなど結果を出し たくなくなってしまうことがあるが、経過をみていくことも大事なことだと分かりました。楽しくできること、そのための場づくりが私たちの役割だと思いました。
- ★ 日々の臨床では、とにかく有用な結果を出すことに意識が集中してしまいがちですが、それでは 子どもにとって苦痛の場でしかないと反省しました。やはり子ども本位で何事も進めなければ ならないと改めて思いました。
一番印象的だったのは、乳児のBOA場面で子どもの反応は音を呈示している本人とお母さんが一番わかりやすいということです。その周りのビデオを撮っている人や距離をおいて見ている人には子どもが音に反応したのか、していないのかが分かりにくいのだと聞いて、乳児のBOAは本当に繊細で、検査を超えて子どもと検査者の心の交流だと思いました。
私はまだまだ経験が浅いものですが、乳幼児の聴力検査の根底にあるもの、何はななくとも絶対に守らねばならないものを得た感じがしました。



第3回代表委員会より報告

平成19年度から下記のように運営していきますので、よろしくお願いします。

*会費は、2000円（現状維持）

*秋の講演会は、来年度から会員参加費を有料化（500円）しますので、よろしくお願いします。会員外は、1000円のまま

*冬の学習会は、地元への還元の意味があるので会員無料のまま

来年度の予定

- 第9回講演会・講習会 平成19年8月21・22日（火・水）
場所：大阪府社会福祉会館・大阪府立生野聾学校
講師：目白大学保健医療学部言語聴覚学科長 齋藤 佐和 先生
- 秋の講演会 平成19年11月4日（日） 味覚糖UHA館
- 冬の学習会 調整中

各地の研究會案内

第36回 補聴器勉強会

共催：京都聴覚障害教育研究会

日時：平成19年6月30日（土）・7月1日（日）

場所：京都市北文化会館



近畿教育オーディオロジー

研究協議会事務局

〒639-1122

奈良県大和郡山市丹後庄町456

奈良県立ろう学校内

事務局長 中井 弘征

TEL：0743-56-2921

FAX：0743-56-8833

メール：h-nakai@indigo.plala.or.jp